

2015年度公開シンポジウム

# 創られた歴史に対抗する マイノリティの記憶の表象

—平和のための多文化共生を模索して—

2001年9月11日にアメリカで起きた同時多発テロ事件は、世界を震撼させ、21世紀の世界情勢に暗い影を落としました。世間では、その後も続くテロリズムの恐怖から逃れるために、価値観の異なる他者を排除することで、均質的で平和な社会を築くことができるとする議論が巻き起こっています。しかし、単一的な価値観を強要し、他者を沈黙させる排他的な社会が平和な社会の構築に繋がるのでしょうか。むしろ、今、必要なことは、他者理解の深化による多文化共生ではないのでしょうか。本シンポジウムでは日米の事例をもとに、他者排除のために主流派によって歴史が創造されるプロセスと、主流社会の中で抑圧されてきたマイノリティの人々の記憶が表象するメッセージを読み解きながら、平和を希求する多文化共生の可能性について考えていきたいと思います。

日時：2015年6月24日(水)  
14:00～17:30(開場13:30)

会場：明治学院大学白金キャンパス  
本館10階大会議場(定員100名)  
(〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37)  
<http://www.meijigakuin.ac.jp/access/>)

\* 日本語・英語同時通訳あり \* 要申し込み \* 無料 \*

## ◆プログラム◆

- 14:00-14:10 開会の辞 パネリスト紹介
- 14:10-15:10 報告 1  
「家系図の本」  
トマス・アレン・ハリス (映画監督)  
「活力を生み出す変化と伝統の継承」  
デボラ・ホホラ (インディアン・プエブロ文化センター学芸員、アーティスト)
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-16:20 報告 2  
「日系アメリカ人と強制収容所」  
荒 このみ (東京外国語大学名誉教授、アメリカ文学者)  
「『天孫降臨』と『三韓征伐』—近代の九州でせめぎあう神話と伝説」  
原 武史 (明治学院大学国際学部教授、政治学者)
- 16:20-16:30 休憩
- 16:30-17:20 討論・質疑応答
- 17:20-17:30 閉会の辞

\* 司会：森 あおい (明治学院大学国際学部教授、国際学部附属研究所長、アメリカ文学者)

## \*\*\* Profiles \*\*\*

### Thomas Allen Harris (トマス・アレン・ハリス)

1962 年生まれ、映画監督、Chimpanzee Production 代表

監督作品に、*The Twelve Disciples of Nelson Mandela* (Pan African 映画祭にてベストドキュメンタリー賞受賞)、*E Minha Cara/That's My Face* (国際映画監督賞受賞) 等。最新作の *Through a Lens Darkly: Black Photographers and the Emergence of a People* は、アフリカ系アメリカ人コミュニティにおける自己のイメージ形成を、写真という手段を使って検証した新しい映画として注目を集める。サンタバーバラ国際映画祭にて社会正義賞、アフリカ映画アカデミー賞のベスト・ディアスポラ・ドキュメンタリー賞を受賞。



### Deborah Jojola (デボラ・ホホラ)

1962 年生まれ、インディアン・プエブロ文化センター学芸員、アーティスト

主な作品に、“Hidden Story”(リトグラフ, 2007)、“Basa Journey”(リトグラフ, 1999)、“Jemez Feast Day-1950”(リトグラフ, 2009)、“Ceremonious”(リトグラフ, 2009)、“When He Left This World”(リトグラフ, 2000) 等。SWAIA Indian Market 2011 の多面的プリントメイキング部門において第一位受賞など受賞作多数。アメリカ先住民アーティストとして、部族の伝統的な様式を生かした中にも革新的な作品で高く評価されている。学芸員を務めながら、30年にわたって美術講師として指導にあたる等、多方面で活躍している。



### 荒 このみ (あら・このみ)

1946 年生まれ、東京外国語大学名誉教授、アメリカ文学者

専門はアメリカ文学。著書に『マルコムX一人権への闘い』(岩波新書、2009)、『歌姫あるいは闘士 ジョセフィン・ベイカー』(講談社、2007)、『アフリカン・アメリカン文学論—「ニグロのイデオロム」と想像力』(東大出版会、2004)、『アフリカン・アメリカンの文学—「私には夢がある」考』(平凡社、2000)、『黒人のアメリカ誕生の物語』(筑摩書房、1997)、『女のアメリカ』(花伝社、1987)、翻訳書に『風と共に去りぬ』(マーガレット・ミッチェル著)(岩波書店、2015) など。2008 年 トニ・モリスン学会翻訳賞受賞。



### 原 武史 (はら・たけし)

1962 年生まれ、明治学院大学教授、政治学者

専門は日本政治思想史。著書に、『「民都」大阪対「帝都」東京』(講談社選書メチエ、1998、サントリー学芸賞受賞)、『大正天皇』(朝日新聞社、2000、毎日出版文化賞受賞)、『滝山コミュニケーション1974』(講談社、2007、講談社ノンフィクション賞受賞)、『昭和天皇』(岩波新書、2008、司馬遼太郎賞受賞)、『レッドアローとスターハウス—もうひとつの戦後思想史—』(新潮社、2012)、『完本皇居前広場』(文春学藝ライブラリー、2014)、『皇后考』(講談社、2014)、『知の訓練—日本にとって政治とは何か—』(新潮新書、2014) など。



### 森 あおい (もり・あおい)

1958 年生まれ、明治学院大学教授、国際学部附属研究所所長、アメリカ文学者

専門はアメリカ文学、アメリカ文化。著書に *Toni Morrison and Womanist Discourse* (New York: Peter Lang, 1999)、『トニ・モリスン「パラダイス」を読む』(彩流社、2009)、主要論文に「アフリカ系アメリカ人の音楽・文学に見る人種意識の変遷—W.E.B. デュボイスからポストソウル世代のソルソン・ホワイトヘッドにいたるまで—」(『ことばが語るもの』、英宝社、2012)、「甦るゾラ・ニール・ハーストンの戯曲—「ポーク・カウンティ」を中心に—」(『エスニック研究のフロンティア』、金星堂、2014) など。2000 年 トニ・モリスン学会図書出版賞受賞。

